

◇◇ 近畿病院図書室協議会 ◇◇

平成16年度 第31回 総会 報告

日時：平成17年3月25日

午後1時～4時

会場：コープ・イン・京都

総会プログラム

開会

- 1 会長挨拶(外来延長のため出席できず)
- 2 議長・副議長・書記選出
- 3 議案審議
 - 1) 平成16年度活動報告
 - 2) 平成16年度会計・監査報告
 - 3) 平成17年度活動方針
 - 4) 平成17年度事業計画
 - 5) 平成17年度予算
 - 6) 役員改選

～ 小 憩 ～

- 7) 平成17年度会長・事務局長承認

閉会

議長：中村雅子（大阪府立母子保健総合医療センター）

副議長：藤平佳代（大阪府赤十字血液センター）

書記：釜石千恵（奈良社会保険病院）

総会員数：128機関

出席：35機関

委任状：52機関

合計：87機関（会員の2/3以上の数をみ
たし総会成立）

議案 I. 平成16年度活動報告

はじめに

平成16年度は、近畿病院図書室協議会発足30

周年を迎え、記念事業を行った。幹事は世代交代が進み、5人の新幹事を迎えた。今年度の事業としては、30周年記念事業以外は今までの事業を継続することで、次の世代に伝えていった一年といえよう。しかし、当会の事務の一部を委託することとなっていた日本学会事務センターが、経営破綻するというアクシデントに見舞われ、会計面での後始末に追われてしまう事態も発生した。

継続事業のうち教育研修活動では、30周年記念事業「30周年記念フォーラム」として、近畿地区医学図書館協議会、日本薬学図書館近畿・中国・四国地区協議会との協同開催によるシンポジウムと研修会（第105回）を開催し、他に定例の研修会を2回、新任担当者向けの勉強会を1回行った。

「30周年記念フォーラム」は、協同開催のシンポジウム、記念コンサート・懇親会、研修会で構成した。シンポジウムは、「効果ある利用者教育をめざして」というテーマのもとに、医学図書館・薬学図書館関係それに病院図書館からなるシンポジストの発表と討論を行った。異なる環境にあるとはいえ、図書館員の基本は同じで、利用者教育に果たす役割について考えるよすがとなった。第105回研修会では、「著作権」をメインテーマに基本的なことから最近の話題までを飯田育子氏（浜松赤十字病院）、熊谷智恵子氏（虎ノ門病院）のお二人にご講演いただき、今一度病院図書館と著作権について学ぶことができた。

第106回研修会では、医学の基礎知識の修得と病院の他の職種との関わりを探るため、清水孝郎氏（住友病院）、河村徹郎氏（鈴鹿医療科学大学）、増田徹氏（藍野大学）、加藤紀仁氏（緑風会病院）を講師に招いた。

第107回研修会は例年のごとく、2005年3月25日に第31回総会とともに「事例・研究報告会」として開催する。

出版広報活動では、会誌『病院図書館』第24巻を定期刊行した。連載や報告記事のほか、「30周年記念フォーラム」の特集を組んだ。ただ、発行の遅れはなかなか取り戻せず、年度内の4号発行はできなかった。

協議会ホームページについては、ワーキンググループを作って対応することになった。会員名簿の更新をはかることができ、事務局便りを掲載することになったが、十分な活用とはまだいえない。当会の案内小冊子の発行は、ホームページを活用することで冊子体としての発行は見合わせるようになったので、ワーキンググループの活動の充実を期待する。

医学文献情報活動では、一昨年度より取り組んできた医学雑誌総合目録の改訂作業が終了し、「近畿病院図書室協議会医学雑誌総合目録CD-ROM 版2004」として発行することができた。しかし、研修会で一部配布した後、不具合が判明し、改めて修正方法を作成し発送を終了した。

総合目録の発行にあたっては、従来より作成費用が多額になるため、会員の一部負担をお願いしてきたが、事業を始めるにあたっての事業計画案に明示されていなかったこと、また事業収入として計上されていなかった点については不手際をお詫びする。

年次統計調査は、今年度は詳細調査の年に当たっており、集計した報告書は年度内に会員へ配布する予定である。

対外交流では、日本医学図書館協会とは総会への出席、会員の文献相互貸借など従来通り交流を進めた。その地区会である近畿地区医学図書館協議会とは、地区例会へのオブザーバー出席、シンポジウムの共催などで親密に交流している。また、病院図書室研究会や各地区の病院図書室ネットワークとは、それぞれ会誌交換や寄稿などの交流があった。

さらに、著作権改正にあたって、文化庁より要望書の提出の募集があったが、認識を同じくする団体グループと広く連携し、共同して要望書を提出することにした。

昨年度も継続して行ってきた京都大学大学院医学研究科との「EBM 情報システム・ワーキンググループ活動」は、『診断マニュアルとEBMに基づく治療ガイドライン』が日本リウマチ財団から出版され、終結した。また6・7月の京都大学でのEBM 特別ワークショップには当協議会から5名参加し、協力した。

また、2004年11月に新潟県をおそった新潟県中越地震に際しては、新潟県病院図書室研究会へ見舞金を送り、礼状を頂戴した。

I-1-1 研修部

[第19回勉強会]

日 時：2004年6月24日 10:30～16:30

場 所：姫路赤十字病院

テーマ：

- 病院図書館業務の基礎
- 近畿病院図書室協議会の成り立ち
- 病院における図書室の役割とは？
- －基本的業務について－
- 病院図書館での文献取り寄せ業務
- －その手順と基本的マナー－
- 病院見学

講 師：研修部

参加者数：22名

会 費：500円

[近畿病院図書室協議会 創立30周年フォーラム]

平成16年度近畿地区医学図書館協議会／日本薬学図書館近畿・中国・四国地区協議会／近畿病院図書室協議会共催シンポジウム及び近畿病院図書室協議会第106回研修会共催シンポジウム

日 時：2004年10月8日 13:00～16:00

場 所：京都市国際交流会館

シンポジウム：効果ある利用者教育をめざして

1. 近畿大学中央図書館の利用者サービス・利用者教育の取り組み

近畿大学中央図書館収書・整理課

課長補佐 中尾民子

2. 住友病院図書室における利用者教育－研修医オリエンテーションを中心に－
住友病院医学図書部司書

松本純子

3. 京都大学医学図書館の情報リテラシー教育

京都大学医学図書館閲覧掛長

北川昌子

4. 効果ある利用者教育を目指して－関西医科大学での取り組み－
関西医科大学附属図書館長

山田久夫氏

座長：国立病院機構京都医療センター図書室

小田中徹也

参加者数：79名

[第105回研修会]

日時：2004年10月9日 10：00～16：30

場所：京都市国際交流会館

プログラム：

1. 著作権と病院図書室
講師：浜松赤十字病院図書室 飯田育子
2. 病院図書館と著作権：最近の話題
講師：虎の門病院図書室 熊谷智恵子
3. 国立情報学研究所の新たな情報提供サービス展開
講師：国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課目録情報管理係長 鶴澤和往
4. スモールグループ討議
テーマ 1) 病院機能評価を評価する
2) 著作権とILL
3) オンラインジャーナルの利用方法
4) 仮想患者図書館

参加者数：46名（会員31名、会員外15名）

会費：会員1,000円、会員外1,500円

[第106回研修会]

日時：2005年2月2日 10：00～16：00

場所：住友病院

プログラム：

1. 新しい専門職「医療情報技師」について
講師：鈴鹿医療科学大学医用工学科教授 河村徹郎
2. 住友病院図書室の紹介
講師：住友病院医学図書部 松本純子
3. 糖尿病の今昔
講師：住友病院健康管理センター長 清水孝郎
4. 藍野学院における図書館利用
講師：藍野大学中央図書館 増田 徹
5. 図書室はかけがえのない情報源
講師：緑風会病院リハビリテーション科理学療法士 加藤紀仁

参加者数：29名（会員24名、会員外5名）

会費：会員1,000円、会員外1,500円

[第107回研修会]

日時：2005年3月25日 10：00～12：00

場所：コープ・イン・京都

プログラム：事例研究報告会

1. 星ヶ丘厚生年金病院図書館の業務分析
中村友紀（星ヶ丘厚生年金病院）
2. 当院の図書室管理システムについて
井上智奈美（三菱京都病院）
3. 病院図書室の役割
安東正子（姫路赤十字病院）
4. 総合雑誌目録について
大西幸雄（サンメディア）
5. iyakuSearch データベースの紹介
寺村いく子

参加者数：45名（会員39名、会員外6名）

会費：会員500円、会員外1,500円

今年度は研修会を3回、勉強会を1回行った。また今年度は、近畿病院図書室協議会が1974年秋に創立されてから30周年を迎えたことを記念して、近畿地区医学図書館協議会と日本薬学図書館近畿・中国・四国地区協議会のご協力を得て、三団体共催のシンポジウムとの合同開催と

し、近畿病院図書室協議会創立30周年記念フォーラムを行った。

今年度の研修部の活動としては、新会員が増えたこともあり、春に新任病院図書館員向けの勉強会を開催し、基本的な図書館管理の方法から、正しい文献複写申し込みの仕方を勉強し、実際に会場となった病院の図書室を見学した。

メインの行事は、創立30周年記念のフォーラムと翌日に開催した第105回研修会である。三団体共催シンポジウムとはいえ、参加者の半数以上が近畿病院図書室協議会の会員であった。シンポジウム終了後には、記念コンサート、懇親会を催したが、多くの方にご参加いただき盛況となってよかったと思う。

翌日の第105回研修会でを行ったグループワークショップでは、4つのテーマから希望するものを事前に参加者に選んでいただいて、資料を準備した上で討議を行ったので、活発な話し合いができた。討議した内容をグループごとに発表したが、ちょっと面白い結論がでたところもあった。

また、研修会や勉強会の場が、会員同士の交流のきっかけとなるよう、意見交換会の時間をもうけるようにした。ベテランの方は相談にのり、新任の方は質問をし、相手の顔が見えることによって、会以外での連絡や相談も気後れせずに行えるのではないかと期待している。

事例・研究報告会での演題の応募は今回も少なかった。発表することがスキルアップにつながるということを考えて発表の場を積極的に活用してほしい。

そして、会員の皆様にも今まで以上に研修部活動へ参加していただき、願わくば、会員の方から研修会の企画が提案されるようになれば大変うれしい限りである。

2004年度の研修部員は以下の通りである。

部長：安東 正子（姫路赤十字病院：幹事）

部員：小川 香（耳原総合病院：幹事）

神田智香子（宇治徳洲会病院）

亀井真由美（阪和記念会館）

田中 文子（済生会兵庫県病院）

中村 雅子（大阪府立母子保健総合医療センター）

永井 保子（大阪府済生会泉尾病院）

オブザーバー：林 伴子（社会保険神戸中央病院：事務局長）

I-1-2 会誌編集部

1. 活動報告

会誌24巻1号～3号を発行。

配布部数：235部（会員131、講読会員78、交換・寄贈28）

印刷部数：各号300部。

（1）会誌内容概略および発行日

24巻（2004年）

1号（発行2004年6月 37頁）

特集：病院における図書館システムの現況

当院における『司書アシスト』を使用した図書予算管理について

図書システム CALIS を経て ELCIELO 導入まで

「情報館」を導入して

『ACCESS2000』による当図書室の資料管理システムについて

ファイルメーカーPro を利用した蔵書管理

病院図書室の管理システム－松山市民病院

図書室の場合

病院図書室の管理システム－(財)倉敷中央病

院図書室の場合

図書館システム（自館作成）に関するアンケート

2号（発行2004年10月 65頁）

特集：総会事例・研究報告会（第104回研修会）

臨床研修必修化に伴う情報源の整備

－調査と考察－

当院における図書室業務の取り組みについて

図書室開設準備の一年

病院機能評価にむけて図書室改善のとりく

み

解説：

診療ガイドライン

電子ジャーナルと相互貸借について

3号(発行2005年2月 37頁)

特集：できる！文献入手

webによる文献入手方法－2機関の紹介－

医中誌文献入手サービスのご紹介

JSTの複写サービス

近畿病院図書室協議会 会員所蔵雑誌目録

“CD版”について

報告：

著作権法改正に関する文化庁への要望書提出

4号(発行2005年6月 37頁)

特集1：図書館プロジェクトX

劇的な納期改善

装幀革命

図書館とフィルムルックス

当院図書室における課題

研修会講演：

著作権と病院図書館

病院図書館と著作権

(2) シリーズ掲載

「いますぐ役立つホームページ」

⑰Life Science Dictionary (Vol.24 No.1)

⑱シソーラス研究会 (Vol.24 No.3)

「電子資料解題」

①医学中央雑誌 (Vol.24 No.2)

「What's EBM？」

⑬EBMであるもの・EBMでないもの
(Vol.24 No.1)

⑭EBMであるもの・EBMでないもの
(その2) (Vol.24 No.2)

⑮EBMから診療ガイドラインへ(その1)
(Vol.24 No.3)

「ちょっとこぼれ話」

Ⅷ (Vol.24 No.1)

Ⅸ (Vol.24 No.2)

X (Vol.24 No.3)

(3) 掲載広告各社

サンメディア、独立行政法人科学技術振興機構、ユサコ、医学中央雑誌刊行会、ベルブック、丸善、ナカバヤシ、南江堂、丸善 e-プロダクツ部、ブレインテック

(4) 編集会議

第1回 2004年4月3日 京都

第2回 2004年7月24日 京都

第3回 2004年9月25日 茨木

第4回 2005年1月23日 茨木

2. 次年度編集方針

会誌発行が遅れたのは、部長の責任であった。深くお詫びしたい。部員はきちんと仕事をこなしており、なにより企画において決して他誌にひけをとっていないので、今後何としても発行ペースを戻して行きたい。

編集方針としては、昨年同様、会員のための協議会機関紙であることを第一義とする。今年度は特集においても、多くの会員に原稿を依頼させていただいた(11機関)。今後もよい誌面づくりのためのみならず、会員全体のスキルアップに資することができるように同様に会員の皆さまに原稿をお願いしたいと思っている。

3. 部員(2005年3月現在)

部長：増田 徹(藍野大学)

部員：井澤 智子(松阪中央総合病院)

井上智奈美(三菱京都病院)

寺澤 裕子(関西労災病院)

松尾 知香(石切生喜病院)

若杉 亜矢(松下記念病院)

編集協力：瀬戸 嘉枝

(神奈川衛生学園専門学校)

協力員：小田中徹也

(国立病院機構京都医療センター)

首藤 佳子(星ヶ丘厚生年金病院)

I-1-3 統計調査部

「図書室統計調査報告書の発行」

a. 調査対象期間：平成15年度

(2003年4月1日～2004年3月31日)

b. 調査項目：図書室の管理機能・サービス機能・年度統計調査

c. 作業経過：

2004/11/18 Eメール登録機関へメールでの回答可否について調査

2004/11/27 Eメールにて返信不可、または未回答、Eメール登録なし機関へ発送

2004/12/28 回答締切日

報告書発送は3月上旬を予定

d. 回答施設：80機関（総数129機関）

回答率 62%

e. 文献の相互利用（平成16年度全体数）

—申込—

協議会会員	9,816件（28%）
会員以外の病院	3,861件（11%）
大学図書館	14,372件（40%）
文献手配業者	5,848件（16%）
その他	1,600件（5%）
合計	35,497件（100%）

—受付—

協議会会員	9,102件（69%）
上記以外の病院	3,889件（29%）
その他	280件（2%）
合計	13,271件（100%）

f. 経費：33,720円

I-1-4 目録編集部

「医学雑誌総合目録 2004年版」のCD-ROM版完成

「医学雑誌総合目録 1997年版」の改訂を平成13年度からの事業として編集作業を開始して以来、実に4年を経過して、平成16年10月によりやく完成となった。会員全員への配布は、更にその後の修正を加えて12月となった。

今年度の目録編集作業完了までの経過は次の通りである。

2004年4月 (株)サンメディアにてCD-ROM版の作成に入った。

2004年8月 臨時幹事会にて、サンメディアよりCD-ROM 試作版の説明を受けた。実

際の使用するための不都合な箇所を指摘し改良を依頼した。（於：国立病院機構京都医療センター）

2004年10月～12月

10月にCD-ROM版が完成。

「30周年記念シンポジウム」の参加者に配布したが一部修正が必要となり、修正方法はWeb上で行うようにして会員全員に配布した。

2005年1月「医学雑誌総合目録 2003年Mac版」が完成。Mac版を希望する会員へ送付した。現在Web版を作成中である。

「医学雑誌総合目録 2004年版」は平成13年度の作成準備期間を経て、編集作業は14年度、15年度の2年間におよび、16年度になってCD-ROMの作成となり8月に試作品が完成した。その後当会からの要望によって修正、改良された。作業期間の遅れは会員機関からのデータ提出完了までの期間が長引き、それに伴う提出所蔵データの修正作業と、(株)サンメディアでの作業行程の大幅な遅れが要因であった。

この目録の作成費はこれまでの総合目録と同じく協議会と会員の双方で負担することにし、会員の負担金を5,000円とした。ただし、全額会費から支出するべきではないかとの問合せもあった。

I-1-5 会員業績（当協議会内関係での発表は除く）

【口演発表】

(1) 山室真知子（京都南病院）

患者・市民への医学情報の提供
第75回JMLA総会第3分科会（東京）
2004.5

(2) 山室真知子

患者・一般住民の医学専門書公開7年間の報告（ポスター発表）
第21回全国医学情報サービス研究大会（東京）

2004. 7

- (3) 河合富士美、及川はるみ (聖路加国際病院)、奥出麻里 (JFE 健康保険組合川鉄千葉病院)、首藤佳子 (星ヶ丘厚生年金病院)、小田中徹也 (国立病院機構京都医療センター)
Systematic Review に使用されるデータベースの動向 : Cochrane Database of Systematic Reviews の分析から
第21回医学情報サービス研究大会 (東京)
2004. 7. 3-4
 - (4) 首藤佳子 (星ヶ丘厚生年金病院)
病院図書館に求められる新しい役割
平成16年度専門図書館協議会総会・全国研究集会 (広島)
2003. 7. 15-16
 - (5) 首藤佳子、中村友紀 (星ヶ丘厚生年金病院)
当院における電子ジャーナルの利用に関する一考察
第42回日本社会保険医学会総会 (熊本)
2004. 11. 11-12
- [誌上発表]
- (1) 山室真知子
医学図書館とミニ公共図書館として[小規模図書館奮闘記]
図書館雑誌 2004 ; 98 (6) : 401.
 - (2) 山室真知子
病院図書館と患者図書室の現状
医学図書館 2004 ; 51 (2) : 113-115.
 - (3) 山室真知子
患者図書サービスの概要と現状
みんなの図書館 2004 ; 329 : 9-42.
 - (4) 山室真知子
患者さんと地域住民への病院図書室サービス
病院 2004 ; 63 (11) : 919-922.
 - (5) 山室真知子、戸津崎茂雄共著
患者図書室の取組みと経営への効果
月刊 MMRC (日本医業経営コンサルタント協会会誌) 2004 ; 15 (10) : 14-17.
- (6) 山室真知子
全国患者図書サービス連絡会
医学図書館 2004 ; 51 (4) : 349-350.
 - (7) 奈良岡功、山室真知子、酒井由紀子共著
患者と地域の人々への医学情報提供の実践
日本医学図書館協会編. JMLA叢書 3
「健康・医学情報を市民へ」第2章. 日本医学図書館協会 ; 2004. 39-65, 2004.
 - (8) 小田中徹也
コラム : PubMed 更新事情 - Clinical Queries が一新
EBM ジャーナル 2004 ; 5 (4) : 475.
 - (9) 小田中徹也
コラム : PubMed 更新事情 - History に新機能
EBM ジャーナル 2004 ; 5 (5) : 597.
 - (10) 小田中徹也
コラム : PubMed 以外の海外文献データベース
EBM ジャーナル 2004 ; 5 (6) : 726.
 - (11) 小田中徹也
コラム : PubMed 更新事情 - Automatic Term Mapping の強化
EBM ジャーナル 2004 ; 6 (2) : 256.
 - (12) 河合富士美、及川はるみ (聖路加国際病院)、奥出麻里 (JFE健康保険組合川鉄千葉病院)、首藤佳子 (星ヶ丘厚生年金病院)、小田中徹也 (国立病院機構京都医療センター)
Systematic Review に使用されるデータベースの動向 - Cochrane Database of Systematic Reviews の分析から
EBM ジャーナル 2004 ; 5 (6) : 734-737.
 - (13) 小田中徹也
第1章 基本編 日頃の準備と論文作成の基礎知識 3) 文献データベースの選択 - PubMed による文献検索
コンピュータサイエンス学会編. 科学論文がスラスラ書ける! パソコンのやさし

い使い方. 羊土社 ; 2005. p. 40-52

- (14) 小田中徹也
館種別図書館概況「病院図書室」: 近畿病院図書室協議会
図書館年鑑 2004年版 日本図書館協会
p. 91-92.
- (15) 首藤佳子
病院図書館に求められる新しい役割
専門図書館 2004 ; 207 : 14-19.
- (16) 首藤佳子、中村友紀
当院における電子ジャーナルの利用に関する一考察
第42回日本社会保険医学会総会プログラム・抄録集 2004 : 77.

I-2-1 幹事会

昨年同様4回の幹事会を行ったが、更に日本学会事務センター破綻の対応と著作権問題に対応するため臨時幹事会を1回開催し、会の運営にあたった。

- 第1回 (2004/04/23) : 京都南病院
第2回 (2004/07/21) : 住友病院
臨時幹事会 (2004/08/20) : 国立病院機構京都医療センター
(第3回 (2004/10/20) : 藍野大学 : 台風のため急遽延期)
第3回 (2004/11/4) : 国立病院機構京都医療センター
第4回 (2005/01/14) : 藍野大学

I-2-2 役員会

2005年2月25日、京都南病院において平成16年度役員会が開催された。役員会資料(平成16年度議案書草案)に沿って議事進行し、平成16年度の活動方向、会計報告を審議し、一部語句の修正を加えて了承された。また、平成17年度の活動方針案、事業計画案、予算案についても同様に審議され、追加訂正を加えて総会に諮ることになった。今回の役員会では特に会計関係に協議を加えたことを付記しておく。

次に、平成17年度会長については清水聡現会長(京都南病院院長)が再選され、事務局長には林伴子現事務局長(社会保険神戸中央病院司書)が再選された。会則に則り、それぞれ今年度の第31回総会に諮ることになった。

I-2-3 会員の状況

会員数 : 129機関 (2005年1月現在)

入会 : 4機関

新須磨病院(兵庫)、兵庫県心のケアセンター(兵庫)、協仁会小松病院(大阪)、飯田市立病院(長野)

退会 : 1機関 岐阜赤十字病院(岐阜)

I-2-4 対外交流

日本医学図書館協会の第75回総会(2004/05/27-28)へは事務局長の林伴子と幹事の小田中徹也氏がオブザーバーとして出席し、役員や会員との交流を図った。また、第86回近畿地区医学図書館協議会例会(04/05/07)へは事務局長と小田中氏が出席し、第87回例会(04/11/19)へは幹事の若杉重矢氏が出席した。平成16年度近畿地区医学図書館協議会(等)シンポジウムは近畿病院図書室協議会30周年記念フォーラムの一環として共催することになり、事務局長、安東正子幹事、小田中幹事が実行委員として加わった。共催での開催に伴う費用負担については共催団体均等負担する形で協力することが昨年の総会で決定しているが、今回は記念フォーラムということで、会場費は当会負担、講師料については他の2団体負担という形をとった。

著作権問題では「はじめに」でも触れたように、文化庁より著作権改正に当たっての要望書提出の募集があったが、当会では3年前に会長見解として受納された要望書を提出した経緯もあり、認識を同じくする団体グループと広く連携、共同して要望書を提出することにし、小委員会を設置した。

2001年1月、慢性関節リウマチ診療ガイドライン策定に当たって発足した京都大学大学院医

学研究科との「EBM 情報システム・ワーキンググループ」は、文献検索、データ処理さらに編集で協力作業を行ってきたが、2003年12月に「エビデンスにもとづく「関節リウマチ治療ガイドライン」速報版2003」（厚生労働省同研究班編）としてまとめられた。これを1,100名のリウマチ専門医にアンケート調査し、その結果を踏まえて、2004年4月に「診断マニュアルとEBMに基づく治療ガイドライン」（厚生労働省研究班 日本リウマチ財団 2004年）として刊行された。また、同じく2001年から、京都大学大学院医学研究科社会健康医学系のEBM 特別ワークショップにも文献検索の面で当協議会会員が協力しているが、今年度は下記の要領で開催された。

社会健康医学系 2004年前期特別ワークショップ

テーマ：基礎スキルⅠ・Ⅱ「エビデンスを探す」

日時：1回目／6月25日（金）9：00～12：00
2回目／7月2日（金）9：00～12：00

場所：京都大学大学院医学研究科
D棟4階学生実習室

参加者：小田中徹也（京都医療センター）、松本純子（住友病院）、増田 徹（藍野大学中央図書館）、井上智奈美（三菱京都病院）、中村雅子（大阪府立母子保健総合医療センター）

議案Ⅱ．平成16年度会計・監査報告

会計報告にあたっては収入支出について報告するのみであったが、今回は補足説明を加える。

1．日本学会事務センター破綻の件

昨年度総会で事業案、予算案で提示したように、今年度の当会事務の一部（会費請求、購読

料の請求、会誌の発送：委託料金60万円）を日本学会事務センターに委託することになった。4月に契約を結び、名簿の提供、会員への広報を済ませた後、まず、購読会員への購読料金の請求が行われた（6,000円+消費税、売上とみなされるため）。7月になって日本学会事務センターの業務についてとかくの噂が流布されるようになったが、当会からの問合せに対しては問題はないとの返答を頂くのみで、会誌「病院図書館」第24巻1号発行にあたっては事務センターからの発送となった。しかし、8月に入って破綻が発表され、説明会開催の案内が送られてきたが（東京）出席できないまま、納入済の購読会費については回収不能の通知があった。購読料金の納入状況もはっきりしないため、臨時幹事会で対応策を検討した結果、納入状況を調査し、今後の購読の意思の確認を行うことにした。結果としては損失額は購読会費の40万程度となった。ただし、事務センターに支払うはずだった委託料金は未払いのままである。幸い8月末の時点で、例年6月に行っている会費請求がまだだったため急遽会計から会員へ請求することになった。発送を委託するつもりで預けていた資料（会誌のバックナンバーなど）は12月末に返送された。

購読会員に対しては料金の納入が済んだ方々には遅滞なく会誌の発送を行うことにしている。また、今年度は事務センターの都合上、消費税を含んだ請求が行われたが、来年度に相殺して請求することにする。

従来より、幹事ならびに事務局の負担軽減のため、事務の委託を検討し、今回の契約そして破綻と後始末という結果になったのであるが、会員数の増加に伴い事務量は増えてきている。今後もふさわしい委託先を検討し、いずれは事務業務などを委託したい。今回の件については会員への広報、対応が遅れたことを反省している。

2. 医学雑誌総合目録 CD-ROM 版発行について

3 年来の事業である総合目録 CD-ROM 版の発行を行ったが、費用の一部負担についての説明が不足していた。

今回総合目録の発行は当会事業として 3 回目となるが、前回・前々回とも発行費が高額になるため、会員の一部負担をお願いしてきた。今回も同様の発想で事業を開始したが、事業計画案に明記しなかったこと、事業が成就した時の事業収入として計上していなかった点については不手際のそしりを免れない。しかし、今回データとして web での編集作業が可能な環境になったことから新しい情報提供が可能になったことをご了承いただきたい。今後は現行目録に代わり、より安価に所蔵状況を提供できるようにメンテナンスに重点をおくことにする。今年度は会計上多々問題が生じたが、何卒ご理解をいただいで、今後の対応を見守っていただきたい。

(収入の部)

単位 円

予 算		決 算		備 考
費 目	金 額	費 目	金 額	
前年度繰越金	2,154,256	前年度繰越金	2,154,256	
会費	3,830,000	会費	3,630,000	
平成16年度		平成15年度未納		
@30,000×127		@30,000×2		
@50,000×1		平成16年度		
平成15年度未納		@30,000×116		
@30,000×		@50,000×1		
		@10,000×4		入会費
事業収入	638,500	事業収入	869,700	
会誌購読会費	516,000	会誌購読会費	122,700	
平成16年度		平成16年度		
@6,000×78		@6,000×2		
平成15年度未納		@6,300×9		消費税込
@6,000×8		23巻(1-4)	6,000	
		平成15年度未納		
		@6,000×8		
		総合目録CD-ROM	495,000	
		@5,000×99		
研修会費	122,500	研修会費	252,000	
定例研修会			106,000	第104回・105回研修会
@2,000×30×1				第19回勉強会
@1,000×30×1				30周年記念フ
事例報告会			146,000	ォーラム懇親
@500×35×1				会費
勉強会				
@500×15×2				
その他				
その他		その他		
広告掲載料	452,000	広告掲載料	64,000	インフォレーダーペ
				ルブック2003年度分)
合 計	7,074,756	合 計	6,717,956	

平成16年度 会計監査

単位 円

収 入	金 額	支 出	金 額
前年度繰越金	2,154,256	総会費	105,625
		業務委託費	1,155
		事務費	86,168
会費	3,830,000	通信費	79,805
		交通費	150,870
事業収入	869,700	事業費	3,788,621
会誌購読会費	122,700		
		研修会費	1,514,677
		研修会費	283,442
		総合目録CD-ROM	495,000
		総合目録目録出版費	1,462,600
		広告掲載料	64,000
		その他の事業	507,902
		対外活動費	188,100
		資料費	52,772
		資料管理費	22,890
		会議費	39,849
		雑費	0
		翌年度繰越金	2,242,101
合 計	6,717,956	合 計	6,717,956

上記決算については、会計監査を終了しました。

平成17年3月17日

松井 典子
松本 純子

(支出の部)

単位 円

予 算		決 算		備 考
費 目	金 額	費 目	金 額	
総会費	100,000	総会費	105,625	
業務委託費	600,000	業務委託費	1,155	返送確認作業費用
事務費	100,000	事務費	66,168	事務局引継関係
				事務用品、他
通信費	120,000	通信費	79,805	幹事会開催案内、他
交通費	550,000	交通費	150,870	幹事会・編集部会
				研修部会、他
事業費	4,700,000	事業費	3,788,621	
会誌発行費	2,600,000	会誌発行費	1,514,677	24巻1・2・3号
研修会費	400,000	研修会費	283,442	第104/105/106回研修会
				第19回勉強会
医学雑誌総合	1,200,000	医学雑誌総合	1,462,600	CD-ROM作成費
目録作成費		目録作成費		サポート料金、他
その他の事業	500,000	30周年記念フ	498,002	ォーラム懇親
		統計調査報告	9,900	会費、他
		書作成		調査票送料
対外活動費	200,000	対外活動費	188,100	JMLA総会・例会
				新潟地蔵見舞い
資料費	60,000	資料費	52,772	
資料管理費	50,000	資料管理費	22,890	
会議費	150,000	会議費	39,849	幹事会・研修部
				会・編集部会
予備費	40,000		0	
雑費	44,756		0	
合 計	7,074,756	合 計	4,475,855	

議案Ⅲ. 平成17年度活動方針

現在、病院図書室を取り巻く状況は厳しさを増している。担当者の配置転換も多くみられ、継続しての業務が難しく、それぞれの組織の中での認識が問われている。しかし、地域への開かれた図書館、患者への医学医療情報の提供など、医療情報を担うエキスパートとして良質な医療への貢献度は高いと信じる。そのための専門知識の習得に従来より取り組んできた。今後この方針に添って活動を進めてゆくことが期待されていると考える。

さて、昨年度に引き続き、幹事の交代はさらに進んだ。今年度は次世代への橋渡しの年度と想定して事業計画が練られたのがあるが、日本学会事務センター破綻の問題や、30周年記念事業など継続以外の事業、事件もあって、新しい取り組みや事業の見直しはなかなかできなかった。次年度こそ、次世代への円滑な協議会運営、事業活動の移行を図りたい。

今年度は総合目録の作成、30周年記念事業などを無事終えることができた。次年度には機関加盟であることを活かす事業を模索したい。さらに、多くの会員の参加を求め、一部会員への負担を減らす試みとして、任期制、当番制、地区代表制、等々検討を重ね可能性を探ってゆきたい。

以上のことから、来年度の当協議会活動では必要な継続事業を進めつつ新たな事業・目標を模索し、対外的にも広く協力活動を行い、運営・事業活動については新旧世代の交代を円滑に図ってゆくことを課題とする。

議案Ⅳ. 平成17年度事業計画

1. 医学文献情報活動

- 医学雑誌現行情報の収集と目録のメンテナンス

2. 教育研修活動

- 研修会（セミナー形式）
- 勉強会の開催
- 関連団体の研究研修会への案内と参加奨励

3. 出版広報活動

- 会誌『病院図書館』の季刊発行
- ホームページの継続と内容更新

4. 年次統計等の調査活動

- 年次統計と相互貸借の調査

5. 対外活動

- 関連団体との交流・連携

議案Ⅴ. 平成17年度予算

(収入の部)		(支出の部)		単位 円
費目	金額	費目	金額	摘要
前年度繰越金	2,242,101	総会費	110,000	選挙費用、議案書作成費用、特別講師謝礼・交通費
会費	4,160,000	業務委託費	600,000	会費請求、他
平成17年度 @30,000×127		事務費	400,000	事務用品、銀行手数料(他)
@50,000×1		通信費	120,000	優良(液晶プロジェクター)
平成16年度 未納		交通費	550,000	事務局、各部会連絡
@30,000×10				会員通知他
事業収入	579,100	事業費	5,500,000	役員会、幹事会、各部会、
会誌購読会費	434,100	会誌発行費	3,440,000	JMLA近畿地区例会、他
平成17年度				
@5,700×73		別冊発行費	300,000	会誌24(4)25(1-4)発行費
@6,000×30		研修会費	400,000	別冊(What's EBM?)
総合目録未納	145,000	目録サポート	300,000	定例研修会、事例報告会、勉強会
@5,000×29		webワーキング	100,000	2004年-2005年現行分
		研究援助	300,000	活動経費
研修会費	115,000	統計調査	60,000	
定例研修会		その他の事業	600,000	2004年度報告書作成・送料
@2,000×30×1		対外活動費	200,000	2005年度調査報告経費
@1,000×30×1		資料費	60,000	交通費、他
事例報告会		資料管理費	100,000	雑誌購読料、他
@500×35×1		会誌費	150,000	病図書所蔵資料
勉強会		予備費	150,000	会場使用料
@500×15×2		雑費	30,201	庶務費、接遇費
その他		合計	7,970,201	
その他	874,000			
広告掲載料	442,000			
(24巻・25巻)	452,000			
合計	7,970,201	合計	7,970,201	